

小松島市国語研究会のあゆみ

1 本市の状況

小学校11校、各校国語主任と研究部員合わせて19名で構成され、県と同一主題で国語科教育の実践に取り組んできた。

今年度は、新開小学校が第24回四国国語教育研究大会並びに第32回徳島県小学校国語教育研究大会の会場校となり、「主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造—『読むこと』を基盤に、知識・技能の習得と活用する力の育成を図る学習指導—」についての研究を進め、その成果を発表した。

国語部会としても、新開小学校と共同歩調で研修に取り組み、積極的に情報交換などを行い、指導力の向上をめざしてきた。

2 組織

係校長 木村 哲也（北小松島小）

係教頭 井内 孝明（小松島小） 井上 京子（新開小）

部 長 近藤 智子（児安小）

副部長 橋本 恵子（和田島小）

3 研修に関する事業および研究の経過

- (1) 研究主題 主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造
— 「読むこと」を基盤に、知識・技能の習得と活用する力の育成を図る学習指導 —

(2) 研究内容

① 小松島市小学校部会総会ならびに国語部会

（日時）4月23日（木） 13:30～17:00

（場所）芝田小学校

（内容）研究組織作りと研究主題及び研修計画作成

② 小松島市小学校国語部会

（日時）6月11日（木） 13:55～17:00

（場所）南小松島小学校

（内容）第2学年研究授業 遠藤 由美子 教諭

単 元 名 わたしだけの「ニャーゴ日記」をつくろう

単元の目標

(1) 学習者の活動目標

わたしだけの「ニャーゴ日記」をつくろう。

(2) 指導目標

- 物語の展開をとらえ、人物の行動や会話を読み取って、気持ちを想像できるようにする。

○ 作品のおもしろさを味わい、ほかの物語にも興味を持って、読書に親しむ態度が育つようにする。

○ 想像したことを、順序を整理して書くことができるようにする。

〈授業展開〉

授業では、ねこになって「わたしだけの『ニャーゴ日記』をつくろう」というめあてを持たせ、教材を読む視点をはっきりさせた「読むこと」の指導がなされた。日記を書く前に、大事な言葉や叙述をもとに話し合ったり、「ニャーゴ」の鳴き声が意味する気持ちを考えたりすることで、想像を広げながら読むことができていた。日記を書く前に児童の中でイメージが広がっていたので、個人差はあるが、ほとんどの児童が自分の言葉でニャーゴ日記を書くことができた。「書く」ことに抵抗がある児童も、書き出しのヒントを手がかりに書き進めることができた。学習の仕方が身についており、生き生きとした授業が展開された。

〈研究協議〉

読み書き関連指導を中心に、熱心な協議が行われた。

- ・（授業者）新開小の2年生の先生と連絡を取り合って、（T Tのような形で）新開小の先生の指導案に沿って授業を展開した。本学級の児童は順序通り書くことに精一杯で、書いてあることから読み深めて日記を書かせるのが難しかった。ヒントカードとして書き出しを与えたが、そのまま写している子がいた。手紙を書いたらどうかなと思った。
- ・「たま」になりきるために、「たま」の面をかぶったらどうか。自分の立場もはっきりするのではないか。
- ・「ニャーゴ」の字の大きさの変化がよい。イメージが湧いてくる。たまの「ニャーゴ」と子ネズミの「ニャーゴ」で、色が変わっているのもよかった。
- ・「書く」ために「読む」のか、「読む」ために「書く」のか、曖昧だった。指導者がしっかり持っていることが大切。この単元では「書く」ことによってイメージが深まるように展開していくのがよいのでは。
- ・日記は難しかったかもしれない。
- ・日記を書かせることに可能性を感じた。3分の1の児童が楽しんでいたもので、後の児童への指導を工夫すれば、みんなが楽しんでもできるのでは。
- ・先生が言葉を大切にし、実の場で「～に」や「～たち」などの使い方を、立ち止まらせて指導しているのがよかった。
- ・日頃の学習訓練がよくできていて、とても楽しい授業だった。この物語のおもしろさをしっかり掴んでおかないと、子どもから出てきたときに押さえることができない。読みを広げておき揺さぶりをかけることが大切。
- ・単元学習の理念を生かすとはどういうことか。単元学習は形ではない。活動が先でなく、どういう力をつけるのが重要。

③ 四国国語教育研究大会・県小学校国語教育研究大会事前打合せ

（日時）8月24日（月） 9：30～12：00

（場所）新開小学校

(内容) 大会当日の運営等についての協議

④ 四国国語教育研究大会・県小学校国語教育研究大会準備会

(日時) 11月17日(火) 15:30～17:00

(場所) 新開小学校

(内容) 資料の袋詰め, 大会当日の運営等についての最終確認

⑤ 四国国語教育研究大会・県小学校国語教育研究大会前日準備

(日時) 11月19日(木) 14:00～17:00

(場所) 新開小学校

(内容) 会場設営, 駐車場ライン引き その他

⑥ 第24回四国国語教育研究大会・第32回徳島県小学校国語教育研究大会

(日時) 11月20日(金) 8:30～16:00

(場所) 新開小学校

(内容) 公開授業・研究協議・講演

○ 公開授業

学 年	組	指 導 者	単 元 名
特別支援 学 級		増田 尚美	のびのび掲示板に書いて, みんなに伝えよう
1	1	島田 美英	おんどくげきをしよう 「おとうとねずみ チロ」
	2	喜井 廉平	のりものじまん大会をしよう 「いろいろなふね」
2		神崎 素子	「かさこじぞうお手紙集」を作ろう 「かさこじぞう」
3		米山美代子	じんざは幸せだったのかな 「サーカスのライオン」
4		古川 貴祥	徳島のウミガメについて パンフレットにまとめよう 「ウミガメのはまを守る」
5		瀧 敦子	伝記に書かれた人物の生き方に触れて 「マザー・テレサ」を中心に
6		松岡 聖子	「宮沢賢治リーフレット」を作ろう 「宮沢賢治」「イーハトーヴの夢」

(以上 敬称略)

○ 講 演 & ワークショップ

- ・ 演 題 「はじめての一句」
- ・ 講 師 大高 翔 先生

○ 研究の成果

ア「活用する力」を育成する場を設定した単元構想

- ・ 表現する場を設定したことにより、学習者が、自分の有する知識や技能を活用し、読んだことを生かして思考・判断・表現する機会を設けることができた。
- ・ 「音読発表会をしよう」「クイズ大会をしよう」「読み取った内容をパンフレットにしよう」など、学習者にとっての単元全体の活動目標が明確に定まっているため、学習者は、単元を通して意欲的に取り組むことができた。
- ・ 「作品ができる」「発表の場がある」ような単元を構想し、読んだことをもとに表現する場を設定している。表現物が残ることや表現活動が認められることにより、学習者は達成感・成就感を得ることができた。また、指導者は、学習者の表現によって自身の指導を評価し、次の学習の目標設定や単元構想に役立てることができた。
- ・ 「上級生に、下級生に」「幼稚園の子に」など、相手意識や目的意識を明確にした上で、表現物の作成や表現活動に取り組む単元構成にしたため、学習者は、意欲的・主体的に学習に取り組むことができた。

イ 主体的・自覚的にことばを学ぶ姿

- ・ 学習者が学習目標と目標達成までの見通しをもつことにより、意欲が高まり、学習者自らが学習主体となり、単元をつくっていることを実感できた。
- ・ 単元の終わりには自分の学習を振り返り、自己の学びの評価をした。ほとんどの学習者は自分の成長を自覚することができた。また、友達の学習作品を評価する中で、お互いのよいところを学び合い、高め合った。どのような表現が目的にあったより適切な方法なのか、学習者が、自らの力で学び取る場となった。

ウ 2年間の国語科を支える言語活動の充実について

- ・ 「ことばの時間」で学んだ詩やことば遊び、教室掲示に使用した詩など、繰り返し繰り返し練習することで、ことばに対する感性が豊かになった。
- ・ 言語活動の中で語彙が増えたり、ことばの使い方を知ったり、発表の仕方を身に付けたりする姿が見られた。基礎基本の習得と活用する力の相互作用を感じることができた。
- ・ 「ことばの時間」での音読や視写の継続により、教科書では学習していない詩やことわざ・古典的文章などに親しみ、知識として習得している。
- ・ 集会や朝会その他の場面で、人前で話したり発表したりすることに慣れ、表現する楽しさを感じることができるようになってきた。
- ・ 「発表の話型」などの掲示により、意識しながら話そうとしたり、友達の発言を聞いたりできるようになってきた。

○ 今後の課題

ア 「活用する力」を育成する場のとらえ方

- ・学習者の現在もつ力を生かすにとどまらず、より高次の思考力・判断力・表現力を培うことを意識して「活用する力」を育成する単元を構想していくことが必要である。

イ 「『読むこと』を基盤に」を具現化する研究開発

- ・具体的な「読むことの年間指導計画」を漸次研究開発していきたい。
- ・重ね読み・比べ読み・調べ読み等、さまざまな読みの形態を導入する際に必要な教材（読み物、資料、情報など）のリスト一覧、入手方法などを整備する必要がある。

ウ 国語能力表の作成について

- ・本年度作成した能力表を土台としながらより実用的な能力表となるよう、更なる修正を加えたい。
- ・新学習指導要領では、身に付けさせたい力がより細かく設定できるようになっており、それらの力を能力表にどう位置付けるのか研修を深めたい。
- ・指導と評価の一体化を図ることができるよう、PDCAサイクルを稼働させていきたい。

エ 「学習の手引き」の開発

- ・「活用する力」を育むためには、「学習の手引き」にも、学習者の思考力・判断力・表現力の育成につながるような工夫や開発が必要である。

オ 交流する場の設定について

- ・まだ、話型をもとに話し合う段階であり、学習者相互の意見や考えに影響を与えたり、興味・関心を示したりするまでには至っていない。国語科はもちろん他の教科や領域でも意図的に交流する場を設けていきたい。

カ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の移行期の取り扱いについて

- ・本年度は、ことばの時間（朝の活動の時間帯）に古文・故事成語を音読暗唱したり、全校集会で発表したりした。新指導要領の完全実施に向け、新設されたこの事項の時間配分や取り扱う内容・方法について研究を重ねたい。

（新開小学校研究発表資料より抜粋）

⑦ 小松島市小学校国語部会

（日時）2月18日（木）

（場所）北小松島小学校

（内容）研修のまとめと次年度の取り組み

（南小松島小学校教諭 榎本 雅代 記）